

一般社団法人 和乃絆

令和三年度

# 事業計画書

就労移行支援事業所マイパレット  
自立支援教室ひだまりカフェ  
就労定着サポート室あしたば

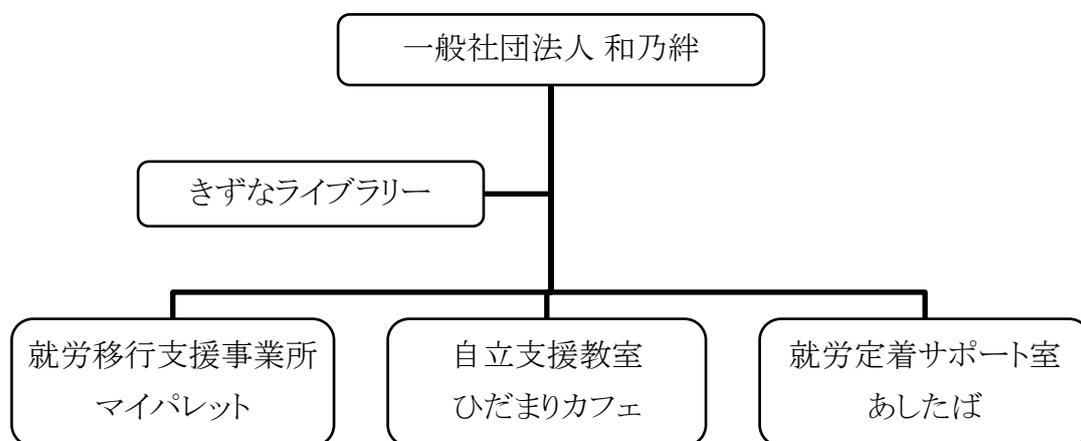
## 内 容

1 法人の指針・概要.....	2
2 事業所名及び所在地.....	3
3 従業者の人数・人員配置.....	3
4 契約利用者見込数.....	3
1)就労移行支援事業所マイパレット.....	3
2)自立支援教室ひだまりカフェ.....	4
3)就労定着サポート室あしたば.....	4
5 事業計画.....	5
1)就労移行支援事業所マイパレット.....	5
① 事業所内作業.....	5
② PC技能訓練.....	5
③ 施設外就労.....	5
④ 企業等実習・就労体験.....	5
⑤ 職業訓練.....	6
⑥ 事業所内活動.....	6
2)自立支援教室ひだまりカフェ.....	6
① アウトリーチ(訪問活動).....	6
② 生活訓練.....	7
③ 事業所内作業.....	7
3)就労定着サポート室あしたば.....	7
① 支援対象について.....	7
② 職場定着に向けて.....	7
③ ジョブコーチや他機関との連携.....	8
4)きずなライブラリー.....	8
① まちライブラリー.....	8
② おもちゃ図書館.....	8
③ 地域に開けた事業所作りについて.....	8

## 1 法人の指針・概要

### 運営理念 “自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく”

当法人の理念「自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく」の精神に則り、より具体的な行動、考え方の基準として制定したものです。役員、従業員一人ひとりが、この行動規範に掲げた趣旨を尊重し、一般社団法人 和乃絆の一員として、また社会人として、法令の遵守はもちろんのこと、良識ある行動をとり、社会的責任を果たしていくよう一層努力してまいります。



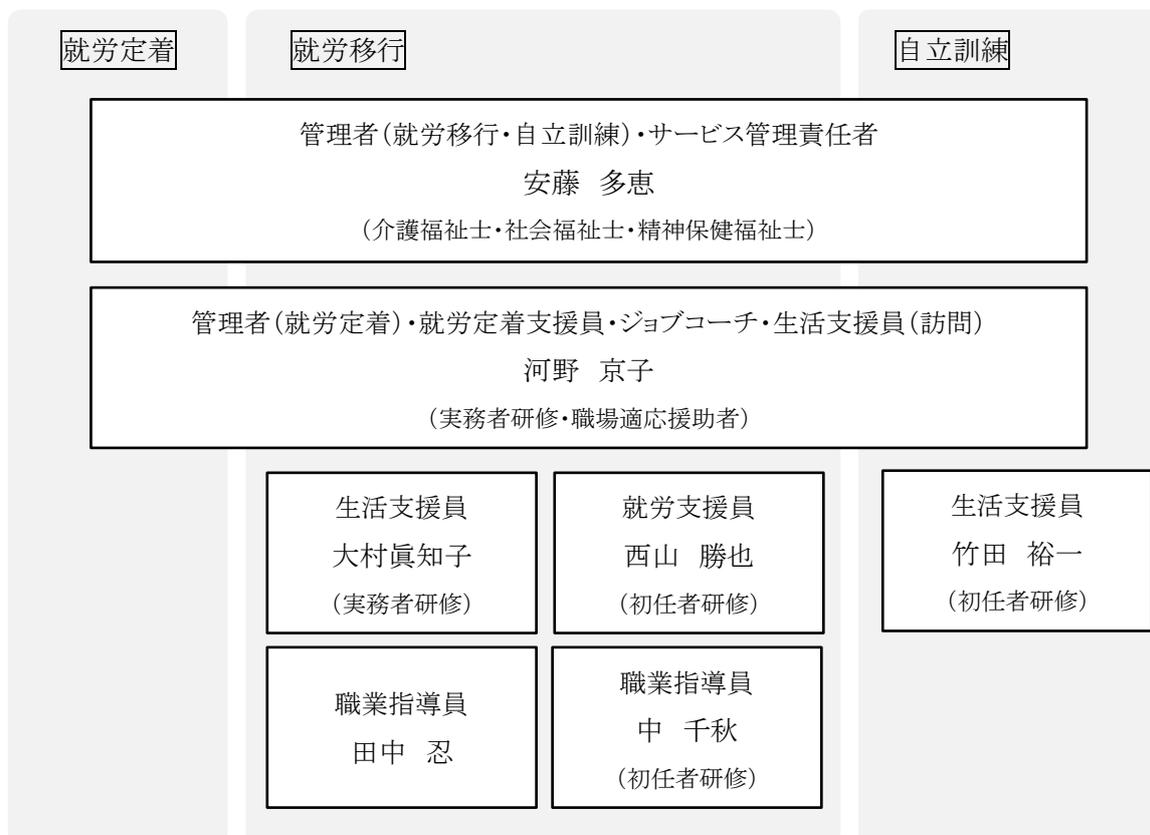
行動規範	I. 社会とのコミュニケーションの促進を図ります II. 個の力を最大限に発揮し、かつ尊重し合います III. 高い透明性と公正な姿勢に基づき行動します IV. 必要とされる事業を実施し、社会への責任を果たします
------	---

事業別理念	就労移行	就労移行支援事業所マイパレット 社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。できないこと、苦手なことに自ら対策を講じることができるような人材育成を目指します。
	自立訓練	自立支援教室ひだまりカフェ 自分以外の存在全てを広く「社会」と捉え、社会生活の第一歩を踏み出すために、必要な訓練を講じ、社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。
	就労定着	就労定着サポート室あしたば あしたばの葉は、「摘んでも明日には芽が出る」といわれるほど成長の早い植物、摘まれてもまた生えてくる、そんな明日への活力を支えるため支援します。

## 2 事業所名及び所在地

就労移行支援事業所マイパレット	就労移行支援	☎641-0014 和歌山市毛見1130-1 ※6月より上記に移転予定 電話:412-8010 FAX:412-8011
自立支援教室ひだまりカフェ	自立訓練(生活訓練)	
就労定着サポート室あしたば	就労定着支援	
きずなライブラリー	(地域交流)	

## 3 従業者の人数・人員配置



常勤職員	6名	計 7名
非常勤職員	1名	

## 4 契約利用者見込数

### 1) 就労移行支援事業所マイパレット

新規利用者見込数	利用定員	月平均利用者見込数
10名	13名	7名

一般就労者見込数		
新規開拓企業見込数	一般就労移行者見込数	半年継続見込数
5社	8名	7名

		令和元年度	令和2年度	令和3年度(見込)
就労移行支援事業所 マイパレット	新規利用者数	6名	8名	10名
	一般就労(就職)	5名	2名	8名
	ジョブコーチ	計22(13)名 ※( )内は法人外ケース	計22(13)名 ※( )内は法人外ケース	計20(10)名 ※( )内は法人外ケース
	福祉的就労	0名	1名	0名

## 2) 自立支援教室ひだまりカフェ

新規利用者見込数	利用定員	月平均利用者見込数
3名	7名	5名

自立支援教室 ひだまりカフェ	新規利用者数	2名	6名	5名
	福祉的就労	1名	1名	3名
	途中退所	0名	0名	0名

## 3) 就労定着サポート室あしたば

新規利用者見込数	利用定員 (現時点での職員配置より算出)	月平均利用者見込数
2名	10名	6名

就労定着 あしたば	新規利用者数	3名	1名	2名
	就労継続中	3名	3名	5名
	途中離職	0名	1名	0名

## 5 事業計画

### 1) 就労移行支援事業所マイパレット

#### ① 事業所内作業

前年度は、クラウドワークスの導入など在宅ワークに取り組む企業からの委託を目指して、在宅ワークフェアなどの参加を試みました。コロナ禍によって、在宅ワークの機運が高まったものの、導入して取り組むだけの即戦力や機材が不十分で、実施には至りませんでした。今年度は、機材の購入や必要な物品の検討などを行いつつ、現時点で事業所内にある雑多な入力業務などを切り出し、遠隔で業務にあたる経験値を増やしていくことに注力していきたいと思っております。タイムカードや名刺整理も、対象者が安定しないものの、取り組みを継続して参りたいと思っております。

**協力先**: 小久保工業所、NPO法人わたぼうしくらぶ、社会福祉法人きたば会、株式会社オージス総研(はじまるくん)相談支援 hana、宮本病院

#### ② PC技能訓練

例年と同様、商業高校などで採用されている「日本情報処理検定」の検定試験に取り組んでいく方針です。訓練時間としては、主にWordとExcel操作の訓練を週2回、主に月・金の午後実施します。前年度はコロナ禍によって事業所内に限られましたが、今年度こそ、一般の方も参加していただけるような環境づくりを行うことで、啓発や本人の自信や意欲につながるのではないかと考えています。日本情報処理検定試験は、年2回(7月、12月)に実施予定です。また、今年度のアビリンピック(障害者技能競技大会)にも、「ワード・プロフェッサ部門」に限らず、積極的な参加を進めます。また、サイボウズや研修システムといったクラウドサービスを導入し、メールや文面によるやり取りの演習も日常的に取り入れていきたいと考えています。

#### ③ 施設外就労

例年と同様、平日の午前中は、紀三井寺公園の清掃業務を請負予定です。昨年度、実施に至らなかった備品購入に至るまで利用者さんが主体となって取り組める環境づくりを再度行います。備品購入については、目視で確認できるようなボードを整備し、その日の日直が注文をかけるなど達成しやすいマニュアルを整備していきます。

**協力先**: 紀の国はまゆう

#### ④ 企業等実習・就労体験

コロナ禍の影響もあり、求人は一定数あるものの、ごく体験的なものは感染予防を考慮して避けたい思いが企業側にもあるようでした。就労体験の機会が大きく減り、まずは面接や書類選考といった流れが増えてくると考えています。今後も対面を避けた採用が検討されていく可

能性を鑑み、どのような体験的に仕事に参加する機会を設けていくかは目下の課題です。就業・生活支援センターなど他機関とも連携し、企業訪問や調整の機会を作る努力は継続していくと同時に、合同面接会や業界研究会、キャリア教育を深めていきたいと考えています。

形骸化することなく、体感していただくための手立ては、実践あるのみというのは、当事業所の支援方針の柱ではありますが、それにこだわるばかりで利用者さんの不安感を高めることのないよう、できる限りの体験の場、困難であれば知識を深めていただくための方策を講じていく考えです。企業によっては、動画配信や業界紹介を熱心に行っているところもあり、あらゆるツールと方法を探っていきます。

#### ⑤ 職業訓練

介護職員初任者研修の参加は、当面予定しておらず、希望者にあっては受講料負担のない講座を提案していく方針です。前年度も実際のケースはなかったものの、産業技術学院やそのほかの教室を活用していくことを模索していきます。より専門的な知識の得る機会を支援していくために、外部講師だけでなく、有益な学びを事業所で繰り返し復習することができるよう学習資料を取りまとめることも始めていきます。研修スライドをまとめて、クラウド研修サービスで共有するといった方法を試験的に取り組んでいきます。

#### ⑥ 事業所内活動

前年度の反省を踏まえて、障害特性ばかりに縛られずに、一般的に求職活動中の利用者さんに有益と考えられる内容を提示し、理解が深まらない部分をサポートするようにしていきたいと考えています。最初から知識を簡易なものに絞ってしまうのではなく、「一般教材」と「やさしい教材」に分け、参加者のようすや意向を確認しながら、教材提供を行うよう心がけます。

また、SSTについては、体系的に行う体制作りが前年度は築いていけなかったとの反省を踏まえ、職員会議で翌月の内容を協議、共有し、断片的になってしまっていたものを続けて同一課題に取り組むことで、理解を深めることができるようにしていきます。記録物については、手書きだけでなく、クラウド研修システムなどを導入し、データ管入力にも対応する方針です。

### 2) 自立支援教室ひだまりカフェ

#### ① アウトリーチ(訪問活動)

「ケース外記録」の活用など、契約外のケースであっても、職員間で情報共有することで、外部機関につなぐ、状態が好転するなど前年度は一定の成果を感じることができました。今年度も情報共有と活用を、まずは法人内で深めていきます。訪問活動については、コロナ禍によって自粛していた期間もありますが、対面だけでなく、オンライン相談にも対応すべく、特にLINEといったSNSの活用をより推奨していくように声かけしていく方針です。

## ② 生活訓練

午前中は例年同様に引き続き自身の昼食を調理する時間とし、調理以外の時間は茶話会など自分の思いを吐露できる空間作りを行います。茶話会だけでなく、対人不安の強い利用者さんなど個別性の原則に従って、個室の確保など安心できる環境作りの整備を行います。前年度は地域との連携を深めるに至りませんでした。情勢を見ながら、食品ロスなどの活用や農作業体験の実施も検討していきます。

前年度は独自プログラムが発展途上にありましたが、今年度は自主製品の開発をはじめ、独自プログラムの強化を図ります。また、コグトレなど短時間で取り組むことができる学習や認知機能訓練の機会を日常的に取り入れるよう工夫していきます。就労移行支援事業所マイパレットと合同で参加するプログラムについては、部屋を分ける、またプログラムで要求される水準をそれぞれ明確に知らせるよう留意して参ります。

## ③ 事業所内作業

合同で請け負っている軽作業は継続していきます。自主製品の開発については、販路開拓まで試験的に探っていく予定です。丸紅基金から寄贈された移動販売用自転車を活用した販売を年2回実施していく予定です。DTPやウェブサイト管理の請け負いを少量ではあるものの取り組んでおり、継続予定です。収支だけでなく、利用者さんが主体的に取り組める内容がどうかを検討し、有効性の高いものを残し、整理していくための材料を集めていきたいと考えています。

## 3) 就労定着サポート室あしたば

### ① 支援対象について

例年同様、全ての対象者に当事業の利用を勧めるものではないと考えます。ただ、利用者負担が発生するケースであっても、月に2回以上の訪問や介入が必要なケース、あるいは本人や企業側の強い希望がある場合は、本人や関係者と協議する時間を設け、契約によらない場合はどこまでができることできないことかを説明し、理解を求める方針です。契約によらないフォローアップについては、原則本人来所や余暇支援に限るものとします。

### ② 職場定着に向けて

対面での支援だけでなく、電話やメール、SNSを活用した支援方法の拡充を図っていきます。リモートワーク、在宅勤務を行っている利用者さんにとっては、企業側の担当者とも対面以外にもつながる方法を確保しておく方針です。本人来所の場合は、例年通り他事業の利用者さんとの住み分けを意識して行い、訓練室でなく相談室や開放スペースであるきずなライブラリーの利用を促していきます。支援の開始、終了にあたっては、当事業所が取り組む支援内容をなるべく明文化し、他機関との役割分担を図っていきます。

### ③ ジョブコーチや他機関との連携

今年度も、ジョブコーチの配置が続くケースについては、ジョブコーチ支援を優先していく方針です。ジョブコーチの配置は自法人のケースに限らず、広く受け入れます。ジョブコーチの支援期間終了後に就労定着支援に移行する場合は、本人・保護者、企業、関係機関、3者からの意見を聞き取り、必要性や妥当性を協議した上で実施していきます。

## 4) きずなライブラリー

### ① まちライブラリー

前年度はイベント開催が難しい状況が続きました。今年度は、丸紅基金より寄贈された移動販売用屋台を用いて、読み聞かせ会など地域に出向いていく活動を行うことができるよう計画して参ります。ただ、オフラインに限らずにオンラインでのイベント開催にも試験的に挑戦していく予定です。

### ② おもちゃ図書館

まちライブラリーと同様、自立支援教室ひだまりカフェの活動として拡充していきたいと考えています。実際の場で閲覧していただくだけでなく、書籍の感想を掲載するなどオンラインでも地域との交流が図れるような取り組みを考えてまいりたいと思います。LLブックの作成を検討していましたが、デジタル教材やスライドなどの作成を模索する予定です。

### ③ 地域に開けた事業所作りについて

安全に配慮しながら、イベントの主催や事務局を担っていきます。「あいサポーター養成研修」「不登校ひきこもり相談会議」などの啓発活動を年1回ずつ開催し、毎月発達障害者当事者会「わかやまムーン」への会場提供や事務局を担う予定です。前年度は実施に至りませんでしたが、いくつかの研修や当事者会を同時期開催なども検討し、より充実させていくべく取り組んで参ります。

以上